

▼テゼスパイア皮下注シリンジ [注]

【重要度】 【一般製剤名】 テゼヘルマブ（遺伝子組換え） Tezepelumab (Genetical Recombination) 【分類】 気管支喘息治療薬 [ヒト抗 TSLP モノクローナル抗体]

【単位】 ▼210mg/Syr

【常用量】 1回 210mg を 4 週間隔

中用量又は高用量の ICS とその他の長期管理薬を併用しても全身性ステロイド薬の投与等が必要な喘息増悪をきたす患者に本剤を追加して投与

【用法】 皮下注（上腕部、大腿部、腹部のいずれか）

冷蔵庫から取り出した後は 25℃以下で保存し、30 日以内に使用

【透析患者への投与方法】 常用量（5）

【保存期 CKD 患者への投与方法】 常用量（5）腎機能障害は PK に影響なし（1）

【特徴】 胸腺間質性リンパ球新生因子（TSLP）に対するヒト IgG2λ のモノクローナル抗体。喘息における炎症誘導経路の上流に位置する上皮細胞由来サイトカインである TSLP に結合し、好酸球やサイトカインの抑制により気道過敏性を軽減。TSLP は主に上皮細胞から産生されるサイトカインであり、複数のアレルゲンや外的刺激により産生が亢進される。TSLP は樹状細胞の成熟/促進、T 細胞の分化誘導、2 型自然リンパ球の活性化、type2 サイトカインの産生促進などでアレルギー性炎症や好酸球性炎症を惹起させる。

【主な副作用・毒性】 感染症、過敏症、心臓障害、注射部位反応

【安全性に関する情報】

【F】 81% [sc]（1）

【tmax】 3～10 日（1）

【代謝】 イムノグロブリンの代謝経路をたどると推定（1）

【排泄】 細網内皮系へ取り込まれ分解され排泄（1）

【CL/F】 0.172 L/day（1）

【t1/2】

【蛋白結合率】 該当しない（1）

【Vd】 血管内に分布（1）3.9L/body（1）

【MW】 約 14.7 万

【透析性】

【O/W 係数】

【肝障害患者への投与方法】

【小児 CKD 患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【備考】 生ワクチンの接種は安全性が確認されていないので避ける。寄生虫感染を除外してから使用。

【更新日】 20250513

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。